令和５年10月発行

きらり 通信 Vol.8

神奈川県立子ども自立生活支援センター
平塚市片岡991-1　TEL.0463-56-0303
http//www.pref.kanagawa.jp/div/1329/
編集　広報委員会　　印刷（株）あしがら印刷

～子どもたちの成長と自立に向けて～

支援部長　山下　真弘

「きらり正面の八重桜」二課３階児童撮影

今年４月に支援部長として着任しました山下と申します。子ども自立生活支援センター「きらり」での勤務は初めてとなりますが、過去にひばりが丘学園と中里学園に勤務経験のある私にとって、初出勤日にこの片岡の地に着いたときは、何とも言えない不思議な気持ちでした。微力ではありますが、子どもたちの育ちを守るべく取組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

さて、今年４月で「きらり」も７年目を迎えました。この間、児童福祉並びに障害福祉の分野は目まぐるしく変化してきていますが、この令和５年４月１日にも大きな変化がありました。児童福祉の分野では、こども家庭庁が創設され、こども基本法が施行されました。これらは「こどもまんなか社会」の実現を目指し、こども施策を進めていくことを目的に創設、制定されました。また、障害福祉の分野でも、神奈川県では「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」が施行されました。この条例は、障がい当事者の立場に立って、障がい者の思いを尊重し、ともに生きる社会を目指すことを目的として制定されました。これらに共通することは、子どもや当事者の意見を聞いたり、気持ちになって考えるなど、子どもや当事者の視点に立って支援していくことが、支援者や社会に求められているということです。これらは、既に取組んでいることではありますが、改めて法律や条例として定められました。このことを踏まえ、引続き「きらり」でも、子どもたちと向き合い、コミュニケーション（話をする、説明をする、考えを聞くなど）を取りながら、支援を進めていきたいと思います。

また、今年の５月８日には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが２類から５類へ移行となりました。「きらり」では、日々しっかりと感染防止対策に取組みながら、コロナ禍において閉ざされていた生活から元の生活へ近づけられたらと考えています。『きらり祭』などのセンター行事の開催、地域等の行事への参加など、感染状況等を見つつ、感染防止対策を講じながら取組んでいきたいと考えています。いずれにしましても、皆様にはまだまだご協力いただくこと、ご不便やとご面倒をおかけすることも多いと思います。何卒ご理解いただければと思います。

昨今、福祉の分野や新型コロナウイルス感染症に関することのみならず、様々な分野において多くの変化が見られています。言い換えれば、日本の社会状況や世界情勢なども含め、私たちの周りはどんどん変化しています。まさに日々『時代の潮流』『時代の変化』を感じるところです。「きらり」も時代やその時々の状況の変化を踏まえ、施設に求められているものは何かを考えつつ、子どもたちの成長のため、子どもたちの自立に向けて、アップデートしながら、一つ一つできることを精一杯取組んでいきたいと思います。引続き「きらり」をよろしくお願いいたします。

ちょっといい話

卓球部活動を通しての子どもたちの成長

子ども第三課２階　湯山　大樹

男子卓球部は子ども第三課１階から３名、２階から 11 名が参加しました。以前からいた児童はもとより、入所期間が短い児童も一生懸命に練習に取り組んで切磋琢磨しています。小・中学生が入り混じる中で、リーダーシップを発揮する児童がいたり、ゲーム形式の練習で負けて悔しくて涙を流しつつも、途中で練習を投げ出さない児童がいたりとフロアでは普段見せないような姿を部活動で見せてくれています。

女子の卓球部は、卓球経験者も初めて卓球を始めた児童も参加しました。部活動というまた生活と違う環境のなかでも一生懸命に取り組み、新しい経験を積んでいます。始めたころはサーブが打てなかった子も練習を続け、今ではとても上手に打てるようになりました。初心者でも部活動に積極的に参加し大会の選手に選ばれた児童もいます。

卓球部以外の時間でもフロアで卓球し、みんなとても意欲的に参加しています。中には卓球の楽しさを知り「卓球部が終わっても卓球したい」と言ってくれる子もいました。卓球部の部員として日常生活も頑張り、卓球以外でも成長が感じられます。卓球部で得た様々な経験を今後も活かしてまた新たな成長に繋げていって欲しいです。

６月４日に小田原アリーナで開催された第 60 回神奈川県児童福祉施設卓球大会には、男子が５名、女子が６名（1 名はマネージャー）、計 11 名が参加しました。大会の選手に選ばれた児童たちは他の児童養護施設から参加している児童との試合に緊張しつつも、何名かはベスト８に残ったり、残念ながら初戦で敗退してしまった児童もフルセットまで食らいつくなど、みな一様に日頃の部活動での練習の成果を発揮することができました。特に小学５年生のＳＭさんは、惜しくも小学生の部で２位でしたが、きらりが開設されて以来、初めてとなる結果を出してくれました。

６月 14 日にはきらり内での卓球大会が開催されました。中学生部門では分校の田澤教諭、３階ＳＲさん、２階のＮＨさんが同率優勝、小生の部では優勝がＳＭさん、準優勝がＵＳさん３位が同率でＳＥＡさん、ＳＫさん――という結果になりました。

それ以外にも敗退してしまった悔しさから涙を流したりする児童もいましたが、みんな最後まで他児の試合を応援していました。また、児童だけではなくフロア職員や自立支援課の職員の皆様、分校の先生方、児童相談所の福祉司や心理司の方も参加していただき応援に来てくださったことで、児童たちのモチベーションに繋がり、大変白熱した素敵な大会を行うことができました。

夏には水泳大会、冬にはマラソンと駅伝大会など、日ごろの練習の成果を発揮できる大会はまだまだあるため、この１年間での部活動を通して児童たちには心身ともに成長してくれることを願っています。あわせて、職員も子どもたちとの部活動を通して、身体を動かす楽しさやそれぞれの競技のルールへの理解を深めていける機会になると嬉しいです。

遊び・笑い・育つ

～今日はなにで遊んでみ余暇～

子ども第一課みらい

0歳～3歳までの元気な子どもたちが生活をしている子ども第一課（みらい）です。朝の会が終わると日中活動がスタート。月齢に合わせた遊びを提供しています。その中で、毎月季節に合わせた作品を子どもたちと一緒に作成しています。5月はトイレットペーパーの芯を使用したこいのぼりの作成。6月は好きな色を使って染め紙の作成などなど…

まだ上手にペンを持てない子どもたちも職員と一緒にぺたぺたぺったん。好きな色のクレヨンを握りしめて自由に描き描き。そんな子どもたちの目はキラキラ輝いています。出来上がった作品に職員がひと手間加えて素敵な共同作品となります。毎月、四季折々の子どもたちの個性輝く作品は日々働く職員の癒しにもなっています。

最近のブームはエビカニクス！！エビとカニの体操なのですが「エビ～カニ～」と手ではさみを作って真似をして職員にアピールします。軽快な音楽が始まると足踏みと手拍子とともにかわいいダンスの始まりです。1回では終わりません。何度も何度も繰り返し踊っているほど大好きなダンスです。真似っこが上手になってきた子どもたちのかわいいダンスが楽しいです。

子ども第二課ひばり

子ども第二課（ひばり）は、利用者のみなさんの年齢や障がいの特性も様々なので、余暇の内容も幅広くなります。少しではありますが、各フロアの余暇の様子や特徴を紹介をさせて頂きます。

1階 つばめ

重度の方が多く、支援では緊張することも多いですが、余暇の場面では子ども達の成長した姿を見ることもでき、職員とっても学びの場となっています。平日は体育館やグラウンドで体を動かすことが多いです。また、毎週とはいきませんが近くスーパーやファストフード店でのお買い物も皆さんの楽しみの1つです。

2階 かもめ・かわせみ

小学生～高校生までの男子が生活を共にしています。余暇は年長児が年下の見本となって楽しく遊んでいます。職員も一緒に遊んだり体を動かしたりしますが、有り余る子ども達のエネルギーに翻弄されてしまうこともあります。楽しい時間を共有することも、子どもにとっては大切な経験です。

3階 めじろ・つぐみ

めじろは中学3年生と高校3年生、つぐみは小学2年生～高校1年生の子どもたちが一緒に生活をしています。昨年はラーメン博物館に行き、各々好きなラーメンを食べ、たくさんの笑顔を見ることができました。今後も利用者のみなさんが様々な経験や学びに触れる機会を作り、成長していく姿を見守っていきたいと思います。

子ども第三課ぎんが

子ども第三課（きんが）では1階は幼児（男子・女子）から小学校低学年、2階は高学年の小学生～中学生の男子、3階では小学生と中学生の女子が生活しています。

1階の幼児さんのフロアではレゴブロックを使ってコマを作る遊びが流行しています。

それぞれ思い思いの形のコマを作り、どうしたらより長い時間回せるか、止まらないコマが作れるかを試行錯誤しています。時にはケンカになることもありますが、褒め合ったり、パーツを譲り合ったりしながら、楽しく遊んでいます。

また、三課全体で鬼ごっこをすることがブームとなっています。男女入り混じって遊んでいるので、トラブルなく遊べるよう、職員がいつも見守っています。

それ以外の遊びとしては、男子はサッカーが昨年度に引き続きブームとなっています。女子小学生はおもちゃでごっこ遊びやテレビで音楽ダンスを流し、楽しく踊っています。

実りある将来に願いを込めて

子ども第二課２階　金丸　肇

子ども第二課２階には、きらりの庭先の一角をお借りして植物栽培をしている男子がいます。ブルーベリーやレモンなどの果樹からバラやあじさいなどの鮮やかな草花、また、建物裏にある畑ではジャガイモやサツマイモを育てています。その全てを自身でお世話をして大切に育てています。そこで栽培したものは、野菜や果実であれば時期に収穫して旬を味わったり、草花であれば一輪挿しにして香りを楽しんだりしています。自分だけで楽しむのではなく、職員に分けてくれたり、きらりの正面玄関に活けて飾り雰囲気を明るいものにしてくれたりしています。採れたての野菜を一緒に料理して、みんなに振る舞う姿からは、ほかの人とも喜びを共有したいという彼の気持ちが伝わります。

植物を育てるにあたり、「この野菜はこの時期に植える」「土がアルカリ性じゃないとうまく育たない」など知識も豊富です。お世話は自分で行うと書きましたが、学校から帰った後や休日の昼間などに楽しみながら取り組んでいる姿が見られます。うまくいかなかったり、気になりすぎて日課が滞ったりすることもありますが、それだけ真剣にとり組んでいる証拠なのだと思います。

「将来は農業を行いたい」と自身の希望について語るように、植物栽培を通して色々な発見や経験をしています。うまくいかなくて悩んだり、イライラしたり。そのたびに職員に話を聞いてもらい、自ら考えて解決する。時にはあきらめることも大切。普段の生活や学校で学べないことを学び、植物を通して多くの人と関わることが彼にとって最大の収穫だと思い、これからも彼の作業を応援したいと思います。

きらりリレートーク
子どもたちとの育ちあい

子ども第二課３階　森川　雅人

子ども第二課３階つぐみ・めじろのフロアリーダーを務めさせていただいている森川雅人と申します。これまでは高齢者から知的障害、身体障害の施設（ずっと成人）を回ってきました。昨年、初めて子どもさんと関わる職場に就きました。

「きらり」で初めて子どもさんと会って話をした時に「自己肯定感」を持てていないことに、少なからず衝撃を受けました。どうしたら自信が持てるだろう、また心から楽しめるものが持てないものか、と考えました。

そんな中、「お花が好きなんだ。色々と写真を撮ってみたい」と話すお子さんがいました。自分も趣味で写真撮影をしており、「じゃあ、今度自分が撮ったお花の写真を持ってくるよ」と伝えると目を輝かせながら、「いいの？！」と嬉しそうに声を上げてくれました。数日後、バラやチューリップなどの写真をセレクトして、一緒に眺める時間を取らせてもらいました。

「わー、きれい！」「こんな色もあるんだあ～！」「育てるの、大変だね。」と会話も弾みました。その後、そのお子さんは園内での散歩中に、自分のデジカメで花を撮るようになりました。自分も付き添うことがあると、「ねえ、森川さんも撮ってみて！」とデジカメを渡してくれます。「こんな角度で撮るといいよ」「この花は小さいからアップにしてみるといいかも？！」などと指南をしながら、一緒に楽しませてもらっています。（こちらもアマチュア・インチキ・カメラマンですから…。）

自分が趣味の一つとして持っていることが、このような形で子どもさんとの関わりに活かされると思うと嬉しい限りです。自分の趣味にもさらに拍車がかかり、より楽しめる気持ちでいます。小さなきっかけでもいいから、何か自信を持ってくれることを祈りながら。

「朝顔 SUN」二課３階児童撮影

ボランティア募集

行事等のお手伝いや、学習補助、衣類の補修等のボランティア活動をしていただける方を募集しています。特に地域の学校へ通っている子どもたちの通学に付き添っていただける方をさがしております。資格や経験は問いません。ご興味のある方はお気軽に下記までご連絡ください。

短期入所サービス

当センターでは年齢は 18 歳までの知的障害のある方を対象に、短期入所サービスを提供しています。ご利用を希望される方は、下記連絡先までご連絡ください。

施設開放

地域におけるコミュニティ作りや文化活動に貢献できるよう、当センターの体育館などの貸し出しを検討しています。ご利用を希望される方は、施設開放事業担当者まで、お問い合わせください。

研修案内

子どもの発達や、発達障害、愛着の問題など、「きらり」が支援する子どもに関するテーマについて、公開研修を企画開催しています。最新情報や内容・日程については、当センターホームページ内「子ども自立生活支援センター公開専門研修計画」を、ご参照ください。

問合せ先：0463－56－0314
当センター自立支援課（平日８：30～17：15）

ともに生きる社会
かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society